

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

上富良野町まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

北海道空知郡上富良野町

3 地域再生計画の区域

北海道空知郡上富良野町の全域

4 地域再生計画の目標

わが国は急速な少子高齢化、人口減少時代を迎える一方で、首都圏への人口流出は依然として歯止めがかからない状況であり、地方における活力の維持・再生は地方自治体、ひいては地域コミュニティを持続可能なものとしていくうえで喫緊の課題といえる。

本町においても例外ではなく、本町の人口は、昭和 30（1955）年の自衛隊の駐屯により急増し、昭和 35（1960）年には 17,101 人となったが、その後減少が続いており、平成 27 年 3 月 31 日現在の住民基本台帳人口（11,161 人）では 5,940 人の減少となっている。今後も人口は急速に減少を続け、平成 52（2040）年には、8,086 人（現在から 27.5%減少）になるものと推計されている。

本町の合計特殊出生率は全道的には上位のレベルにはあるものの、出生数は 2006 年（平成 18 年）以降、減少傾向にあり、教育・保育施設の状況、保護者の職場環境や経済状況などを含め、子育てに対する負担感を軽くする取り組みと、安心して育児できる環境の整備が求められている。

第 2 期上富良野町人口ビジョンの平成 22（2010）～27（2015）年の 5 歳階級別人口移動では、20～24 歳になる年代の女性の転出超過が顕著となっており、原因としては高校卒業後の進学・就職先を町外に求めている結果であると推察される。

また、自衛隊員の異動の影響と思われる 20～24 歳になる男性の転入超過を除き、総じて男女とも全年代において転出超過となっており、この傾向は若年層に顕著で

あることから、雇用の場の不足が人口流出の一因と考えられる。

国内の各産業分野における高齢化と担い手不足は深刻化の一途をたどっており、その状況は町内においても例外ではない。町の基幹産業である農業においては、農家戸数が減少している一方で、基盤整備事業などにより集積が図られた結果、1戸当たりの経営面積は大規模化しているなど、農家戸数の減少、農業従事者の高齢化による労働力不足による衰退を招いている。

本町の特性・資源として「十勝岳に代表される雄大で美しい自然環境・景観」「特色ある農業の営みと豊富な食資源」「多彩で魅力ある観光・交流資源」「安心して暮らせる充実した健康・福祉環境」「自衛隊駐屯地・演習場の存在」「愛町心の強い町民、進められる協働のまちづくり」を挙げている。

このように、急速な変化を遂げていく時代の潮流の中にあって、これらをあらためて深く認識し、生かしていくとともに、町の魅力をさらに高めていく意識と行動が、今後のまちづくりを進めていくうえで求められている。

多くの人をひきつけ、行き交うまち、将来にわたって町民が安心して暮らし続けられるまちをめざして以下の事項を本計画の基本目標として掲げ、目標の達成に取り組む。

- ・基本目標1 これからの上富良野を見据えたしごとづくり、ひとづくり
- ・基本目標2 人をひきつけ、好きになってもらうまちづくり
- ・基本目標3 すべての世代が希望を持ち、安心して暮らし活躍できるまちづくり
- ・基本目標4 ずっと住んでいたくなる、時代に対応したまちづくり

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始 時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する地 方版総合戦略の基 本目標
ア	20～39歳の社会減少数（ 自衛隊営内居住者除く）	10人	10人	基本目標（1）
イ	交流人口（観光入込客数）	590千人	700千人	基本目標（2）
ウ	年間出生数	72人	80人	基本目標（3）
エ	人口の社会減少数	127人	63人	基本目標（4）

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

上富良野町まち・ひと・しごと創生推進事業

ア これからの上富良野を見据えたしごとづくり、ひとづくり事業

イ 人をひきつけ、好きになってもらうまちづくり事業

ウ すべての世代が希望を持ち、安心して暮らし活躍できるまちづくり事業

エ ずっと住んでいたくなる、時代に対応したまちづくり事業

② 事業の内容

ア これからの上富良野を見据えたしごとづくり、ひとづくり事業

町外企業の誘致、町内の事業所による新たな事業展開はもとより、農・商・工の産業間連携による特産品の開発、地域に内在する素材を生かした起業などを促すことで、新たな雇用の場を創出するとともに、人材育成事業や研修機会の提供などを通じて、恵まれた自然環境や特徴的な景観、豊富な農畜産物などの地域特性・資源を核とした、業種を超えたネットワークづくりを促し、各行動主体がこれからの上富良野について具体的なイメージを共有しつつ、まちづくりを進めていく基盤を構築する事業。

○にぎわい創出複合拠点施設整備事業

○産業後継者育成事業 ほか

イ 人をひきつけ、好きになってもらうまちづくり事業

観光などで訪れる以外にも、ふるさと応援寄附や企業版ふるさと納税制度を通じて、上富良野町とのつながりを持つ機会や手段があることから、既知の地域素材や魅力はもとより、そのPRの手法や内容についても今一度見つめ直し、ブラッシュアップするとともに、まだ眠っている地域の資源を掘り起こし、光を当てることで新たな観光需要を創出する取り組みに

より、町民、町外者を問わず、上富良野に愛着感じ、「好き」になってもらい、応援していただける「サポーター」づくりを進める事業。

○三浦綾子『泥流地帯』映画化事業

○ロケツアーリズム推進事業 ほか

ウ すべての世代が希望を持ち、安心して暮らし活躍できるまちづくり事業

子育て世代が不安を抱くことなく、希望を持って出産を迎え、楽しく充実した育児期を過ごすことができる支援の仕組みを築き、また、高齢者がいきいきと日々を過ごせる環境はもとより、地域の未来を担う子どもたちが健やかに育つ環境づくりを進めるとともに、上富良野町に住むすべての人が未来に希望を持ち、健康で、安心して暮らし、活躍できる地域共生社会の構築する事業。

○子育てネットワーク推進事業

○地域包括ケアシステム推進事業 ほか

エ ずっと住んでいたくなる、時代に対応したまちづくり事業

近年増加している風水害や地震、大雪などによる自然災害に加え、活火山である十勝岳を抱えるまちとして噴火災害への備えなど、ハード・ソフト両面における防災・減災対策はもとより、快適で安全な生活を可能にするインフラ整備を進め、地域に住む一人ひとりが安心して、心豊かに、いきいきと育ち、暮らし、年齢を重ねられるまちづくりを推進する事業。

○地域間連携・交流推進事業

○十勝岳ジオパーク構想推進事業 ほか

※ なお、詳細はかみふらの総合戦略Ⅱ－第2期上富良野町まち・ひと・しごと創生総合戦略－のとおり。

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

1,000,000千円（2020年度～2024年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度8月に外部有識者による効果検証を行い、翌年度以降の取り組み方針を決定する。検証後速やかに上富良野町公式WEBサイト上で公表する。

⑥ 事業実施期間

2020年4月1日から2025年3月31日まで

5-3 その他の事業

該当なし

6 計画期間

2020年4月1日から2025年3月31日まで